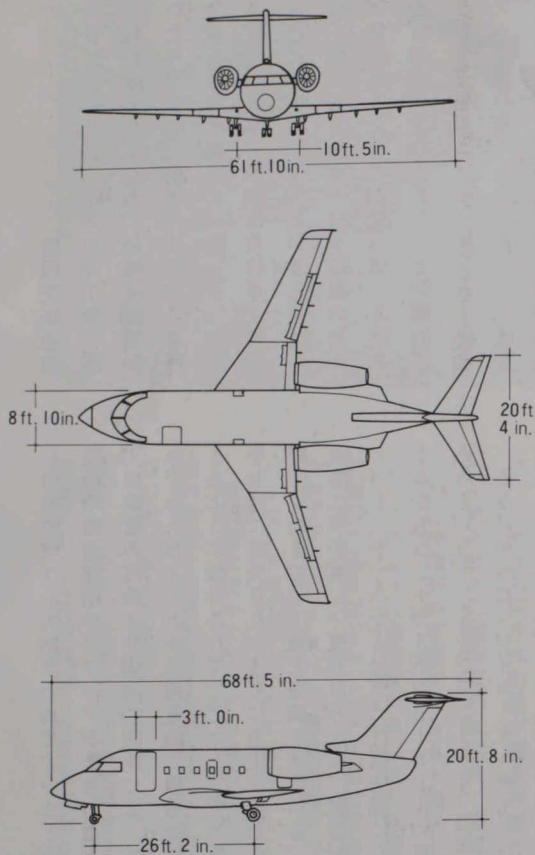


### チャレンジャー機の寸法



米国の軍用機開発、NASAによる研究開発が航空宇宙産業の分野で非常な技

術的進歩をもたらした。そしてカナダはSTOL機および小型ジェット・ターボプロップ・エンジンの開発で国際的技術向上に貢献した。しかし、カナダの技術開発力は米国や欧州にくらべてまだ見劣りすることは否めない。チャレンジャー機も機体設計、エンジンなど米国技術を大幅にとり入れている。そこにチャレンジャーの商業的成功が、これまで隣国の巨人からの独自性「カナディアン・アイデンティティ」を口にしてきたこととどのように結びつくのか、複雑な問題には違いない。いずれにしても、いまの段階では外国、とりわけ米国技術の導入が必要であり、そのためには研究開発に関する政府支出を増大し、それを有効に使う必要があることは確かである。

私が訪加中に会った宇宙産業のスーパー・エアロスペース社のD・クラーク会長が、「私の考では政府と産業の関係は、政府が産業にチャンスを与えること、産業はそれをうまく利用することにあると思

う。これまでカナダ政府は保護主義というか、社会主義的色彩が強く、企業の創意工夫を犠牲にしすぎてきたのではないかと、前内閣時代の政策を痛烈に批判していたのが耳に残っている。将来、航空機は他の交通手段と同様、石油燃料の状況によって大きく左右されることが予想される。少なくとも次の二十年間は、これにかわる燃料、例えば水素燃料など

はまだ望めそうにない。石油燃料価格の上昇が避けがたい以上、より経済的な燃料消費が当然要請されてくる。それを技術的にどう克服するか。同時により有効なシステム、とりわけ軽量システム、例えばフライ・バイ・ワイヤ方式操縦機構、機械操作を電動システムに変えるなどの開発が新たな技術課題としてうかがわ

ている。



「ダッシュ7」